

ここが違う!!

YES!! (市政を変える)

人口減少対策に徹底して取り組み、人口が当然に減少するという現在の市の推計を覆し、平成31年度からの8年間で、若年層の大幅な転出超過数を0にします。

また、合計特殊出生率を平成27年度の1.48から1.87以上に引き上げます。

YES!! (市政を変える)

『公債費残高が減りつつあるので、借入金がしやすくなった』という現在の財政運営の基本姿勢を改め、経常経費の削減や効率的な事業の執行等により、借金に頼らず、借金を減らす、健全な財政運営を行います。

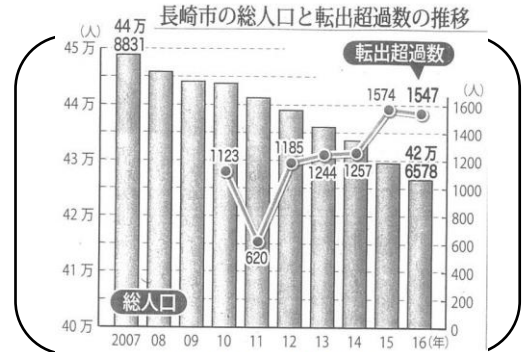
YES!! (市政を変える)

公益的活動を行う市民や団体・企業等の主体的な活動による地域運営を基本とする“新しい公共”の仕組みを迫することで、真の意味での市役所の行政改革を断行し、機構・定数・権限を徹底して見直します。

YES!! (市政を変える)

市民の声を最大限に尊重するガラス張りの市政運営を行い、重要課題についての住民投票を求める請求があれば、積極的に応じます。

NO!! (現在の市政)



[長崎新聞社掲載]

NO!! (現在の市政)



[長崎新聞社掲載]

NO!! (現在の市政)



[長崎新聞社掲載]

NO!! (現在の市政)



[長崎新聞社掲載]

YES!! (市政を変える)

大規模な予算を投じる大型箱物の建設志向を改め、長崎の持てる資産や文物を活かし、長崎ならではの来崎者の受け皿整備を行います。

併せて、大型施設の建設予算は、市内各地区の定住環境の整備や地域振興の経費に振り替えます。

YES!! (市政を変える)

県と市のちぐはぐな関係を改善し、これまでの実績やネットワークを活かして、長崎県の各種施策や事業との連携を図り、長崎市にとって、最小の経費で最大の効果を実現します。

YES!! (市政を変える)

自治体は市民の福祉の増進に努めなければならないという地方自治法上の責務に鑑み、市民の立場から九州新幹線問題、BSL4問題、平和宣言文の内容、国の事業執行や制度内容等に、積極果敢に主張していきます。

YES!! (市政を変える)

現状の取り組みとしての、『協働型社会づくりのために地域コミュニティを醸成する』という総論はそのとおりですが、そのためには、まちづくり協議会等に予算や権限を大幅に配分することをしない行政（役所）の現在のあり方を改めなければ、結局は住民への押しきせに終わってしまいます。

このため、“新しい公共”を創るという理念のもとに、行政（役所）の権限を最小化する実効ある仕組みをつくりまします。

NO!! (現在の市政)

長崎市がJ長崎駅西側に計画しているMICE（コンベンション）機能を中核とする複合施設。日月の市議会に関連予算を提出するのだが、旧来の赤字償還の「箱もの」になるのではとの疑念がぬくえない。その最大の理由は市の無責任体質だ。

無責任体質でMICE大丈夫？

詳細は省くが、県などから要請された旧市民病院と日赤長崎原簿病院との統合による大規模病院建設を断る口実として、市は市民病院の建て替え計画を見直し、スタッフ数や病床数を増やした。異存に乏しいにわか計画だったため、今日のような結果を招くのは必然だったとも言えるが、誰も責任を取らない。MICE施設も既存ホテルとの競合、他自治体と比べての競合のアクセントの脆弱さ、民業圧迫などが指摘されている。市はこれら打ち消すように数字を並べ立てるだろうが、責任が伴わなければ信託しづらい。

[長崎新聞社掲載]

NO!! (現在の市政)

長崎市庁舎の県庁舎跡地移転



住民投票実現せず 市議会で条例案否決

長崎市議会が、長崎市庁舎の県庁舎跡地移転に関する条例案を否決した。住民投票の実現は、市議会の決断に待たなければならない。市議会は、長崎市庁舎の県庁舎跡地移転に関する条例案を否決した。住民投票の実現は、市議会の決断に待たなければならない。市議会は、長崎市庁舎の県庁舎跡地移転に関する条例案を否決した。住民投票の実現は、市議会の決断に待たなければならない。

[長崎新聞社掲載]

NO!! (現在の市政)

特に危険な病原体を研究するバイオセーフティレベル(BSL)4施設を長崎大が坂本キャンパス(長崎市坂本1丁目)に設置する計画について、県と長崎市、長崎大は21日、3者協議を22日午後、県庁で行うと発表した。協議終了後、県と市は計画の容認を表明

BSL4きょう容認表明

県と長崎市

[長崎新聞社掲載]

アスクポート

報道部・堂下 康一